

～ 高校教員研修用資料 ～

思考力・表現力を育成するための授業改善

大正大学 地域創生学部
教授 浦崎 太郎

4 思いやりをみんなに
9 授業と授業改善を両立しよう
11 社会教育施設を有効活用しよう
17 パートナーシップ関係を築こう

大正大学

1

お伝えすること

序 高校教育改革の背景

- **カリマネの軸**
 - ① いま必要な「総学」から「総探」への転換
- **カリマネの理想像** ・「教科横断的な学び」
 - ② 内容ベースだと至難
 - ③ 今はコロナが旬
 - ④ 生徒が「問い」を深めると 生徒自身がつなく
- **カリマネの現実解** ・「資質・能力」視点の徹底
 - ④ 「思考力」を分解し、学校内外で広く共有を
 - ⑤ 高大接続との戦略的な有機化を

2

Society 3.0 から 4.0 への移行

1980	1990	2000	2010	2020
Society 3.0 工業社会		Society 4.0 情報社会		
規格品を大量生産することによって個人も組織も国も豊かになれた社会		インターネット急速に普及 就職氷河期 学力低下問題		知識の陳腐化が速く環境の変化に応じて新しい価値を創出する必要性が高い社会
日本は成功		過去の成功体験を引きずる		日本は出遅れ

バブル崩壊

3

社会の“種類”と次世代の育成

- **農耕社会** ・均質性重視
 - ・先祖伝来の土地や文化をそのまま継承
 - ・個性や抜きん出た才能は不要
 - ・流動性(小) / 共同性(大)
- **工業社会** ・均質性重視
 - ・「規格品の大量生産」が富の源泉
 - ・人も「規格品の大量生産」・個性は封印
 - ・流動性(大) / 対話性・協働性(小) / 公助依存(大)
- **情報社会** ・多様性重視
 - ・“三人寄れば文殊の知恵”が富の源泉
 - ・「自分らしく」で熱情や個性を徹底開放
 - ・流動性(大) / 対話性・協働性(大) / 公助依存(小)

4

Society 2.0 → 4.0 の移行例 (北海道浦幌町)

地元・浦幌の関係者(林業・まちづくり)と副業で十勝に来訪する大手企業社員で「古材風新材」を販売する会社を設立

異質な者が出会い、対話を深めることで、強みを活かしあい、弱みを補いあう道が開け、新しい価値の創出に成功した。各々単独では無理

5

高校生に対する意識・態度

- **Society 2.0**
 - ・人は生まれ育った地で生きていくものだ。
 - ・地域の担い手は地元出身者だ。
 - ・進学や就職で外に出すな!
 - ・長老の言うことを聞け!
 - ・今まで通りのやり方に従え!
 - ・勉強させるな! ・出たら帰ってこないから
 - ・郷土愛を植え付けろ!
 - ・外に出ても戻って来い!
 - ・言うことを聞く者なら 外来者は歓迎!

6

高校生に対する意識・態度

■ Society 4.0~

- ・ 生きる道は“三人寄れば文殊の知恵”だ。
- ・ 自分ならではの才能を存分に伸ばせ!
- ・ 最大限に成長&表現できる環境を選べ。
- ・ 才能をフルに活かせる場所で生きよ。
- ・ 専門性を高めて広い世界を渡り歩け!
- ・ 地元に戻ることは優先しなくてよい。
- ・ この地で成長&表現したい若者は大歓迎!
- ・ この地にある資源を活かして、何かを一緒に創り出していける人物は大歓迎!

7

個別最適な学びと地域課題解決

“自分らしく”

8

個別最適な学びと地域課題解決

“社会に参加する”

9

いま、高校生に必要な学び

“自分らしく社会に参加する”

10

探究や地域連携が全ての高校で必要な理由

新・学習指導要領の軸となる「育成をめざす資質・能力」の三本柱

- ① 何を理解しているか 何ができるか (知識・技能)
- ② 理解していること・できることをどう使うか (思考力・判断力・表現力)
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (学びに向かう力・人間性等)

↓

“自分らしく社会に参加する”
日本中の高校生に届けるべき学び

↓

高校教育改革の本流
探究や地域連携が好きでいい高校だけの事業ではない

11

共学共創コミュニティに共通する機能

- ① 地域医療のIPE (InterProfessional Education)
- ② 飛騨市学園構想
- ③ SCHコミュニティ (Super Community High school)

↓ 共通点

多様なセクターが越境し、共学共創するコミュニティには全体像や未来像を鮮明に見通せるようになるとともに各々が自身の役割を自覚でき、参画意欲も高まり全体のチーム性も向上する・・・という機能がみられる
当事者(高校生等)が参画すると一層パワーアップ

12

新時代の高校像とスクール・ミッション

中央教育審議会 初等中等教育分科会
第11回 新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会（令和2年7月17日）
「新時代に対応した高等学校教育の在り方」（論点整理） **VUCA対応**

● **スクール・ミッションや普通科改革が打ち出された文脈**
高校が“生徒に縁のある地域の多様な人々”とともに

- ・ 20~30年後、どんな世の中になるのか？
- ・ 地域をどうしていけばよいのか？
- ・ どんな次世代を育てていけばよいのか？
- ・ どのように役割を果たしていけばよいのか？

を探究した上で、自校が社会の未来に果たすべき使命を明確化し、各校が使命の達成に必要な教育課程を柔軟に編成できるよう、弾力化した方がよいのではないかと

13

高校改革における共学共創感覚の重要性

多様なセクターによる越境・共学共創に対するリアリティ

低い	↓	高い
描けない (部分最適・現在最適)	世界・社会・地域の 全体像や未来像	描ける (全体最適・未来最適)
形式的(意味なし)	スクールミッション スクールポリシー	実質的(意味あり)
低い	コンソーシアムの機能 (チーム性・参画性)	高い
通り慣れた道 (偏差値指向/探究・地域は無駄)	人々が選ぶ道 (高校教育への期待)	未来に通じる道 (地域で協働的に探究)
消耗・枯渇(受動的)	教師・生徒の意欲	向上・充実(主体的)
低い(硬直)	教育課程の柔軟性	高い(柔軟)
低い	普通科改革の実現性	高い

14

現課程(総学)と新課程(総探)の対比

総合的な学習の時間
“人口減少”

課題
一律的な課題

よりよく課題を解決する

自己の生き方を考えていく

総合的な探究の時間

課題
個に応じた課題

自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していく

個別最適な学び

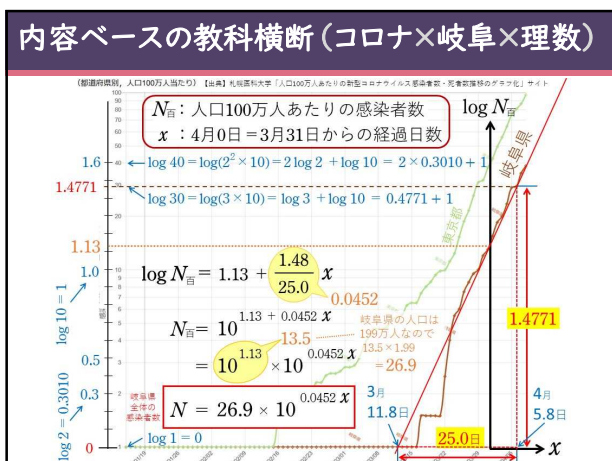
【出典】文部科学省 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総合的な探究の時間編

15

指導要領解説「総探編」に頻出する表現

- **自分軸と社会軸の統合** → “マイ・プロジェクト”
 ・ 自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく
- **協働性・社会参画性・創造性**
 ・ 単に協力して事に当たるという意味ではなく、それぞれのよさを生かしながら個人ではつくりだすことができない価値を生み出す
- **諸科目との有機性**
 ・ 総探において、生徒の関心や疑問を大切に、それをよりどころとして学習活動を生み出すのは、その先で価値ある学習を実現するため

16



17

「問い」が学びをつなぐ可能性

- **宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校・5年男子**
 - ・ 地域で「伝統は残すもの」と思った
 - ・ フィリピンで「伝統は生活の中にあるもの」と思った
 - ・ 「伝統とは何か？」という問いを持った
- ↓
- ・ 地域・図書館・ネット・各科目の授業・
いつでも・どこでも「伝統とは？」のアンテナが立っている
- ・ 各教科担任は、授業内容や宅習課題に反映できる
- ↓
- ・ 各科目で「問いを立てる」「問いを深める」訓練を

18

「問い」を誘発する仕掛け(例)

問 「化学基礎」で学習する以下の内容についてツッコミを入れなさい。

様々な物質の中には、ダイヤモンドのように『硬く、沸点や融点が高く、常温では固体のグループ』もあれば、ドライアイスのように『柔らかく、沸点や融点が低く、常温では液体や気体のグループ』もある。

(ツッコミ)

19

「問い」を誘発する仕掛け(例)

様々な物質の中には、ダイヤモンドのように『硬く、沸点や融点が高く、常温では固体のグループ』もあれば、ドライアイスのように『柔らかく、沸点や融点が低く、常温では液体や気体のグループ』もある。

(ツッコミの例)

- ・「硬い物質の沸点や融点は必ず高いのか？」
- ・「硬い(軟らかい)グループの共通点は何か？」
- ・「なぜ『硬さ』や『沸点・融点』が違うのか？」

20

考えるための技法 = 「思考力」の分解

① 順序付ける 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説「総合的な探究の時間編」p.97より抜粋

② 比較する

③ 分類する

④ 関連付ける

⑤ 多面的に見る・多角的に見る

⑥ 理由付ける(原因や根拠を見付ける)

⑦ 見通す(結果を予想する)

⑧ 具体化する(個別化する, 分解する)

⑨ 抽象化する(一般化する, 統合する)

⑩ 構造化する

21

考えるための技法

① 順序付ける
・複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。

② 比較する
・複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。

③ 分類する
・複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。

④ 関連付ける
・複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
・ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。

22

考えるための技法

⑤ 多面的に見る・多角的に見る
・対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。

⑥ 理由付ける(原因や根拠を見付ける)
・対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。

⑦ 見通す(結果を予想する)
・見通しを立てる。物事の結果を予想する。

23

考えるための技法

⑧ 具体化する(個別化する, 分解する)
・対象に関する上位概念・規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。

⑨ 抽象化する(一般化する, 統合する)
・対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。

⑩ 構造化する
・考えを構造的(網構造・層構造など)に整理する。

24

「資質・能力」と「高大接続」

大学入学者選抜では「資質・能力」を評価している
（文科省の指示 = その比重は今後ますます増大）

■試験科目
（例）大正大学「地域人材育成入試」

第一方面者
学校や地域における様々な活動を通して、高等学校教育で身につけるべき「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をどのように高めてきたか、**具体的な事実やエピソード**を交えて記述してください。

・学校や地域における様々な活動を通して、高等学校教育で身につけるべき「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をどのように高めてきたか、具体的な事実やエピソードを交えて記述してください。

・本学地域創生学部を志望し、「地域人材育成入試」に出席するに至った経緯を、学校や地域における様々な活動とつなげて具体的に記述してください。

25

ポートフォリオ・キャリアパスポートの素材

活動後

- ・大人も同じ世界の人で普通に話せる
- ・自分は地域を変えられる（意識・能力）
- ・アイデアを考えるのが楽しい

勇気を持って自分の考えを発表したら、大人の人達がしっかり耳を傾けてくれて、自分の考えが全体の企画に反映されて、とても嬉しかった。（・・きっかけ）

活動前

- ・大人は別世界の人で話すのは億劫
- ・自分に地域を変えられる力はない（//）
- ・考えるのは無駄だし面倒くさい

26

ポートフォリオ・キャリアパスポートの素材

今回のプログラムに参加する前、私は、「大人は別世界の人」と思っていて、話すのはとても億劫でした。また、自分に地域を変えられる力はないと思い、地域をよくするアイデアを考えるのは無駄なことだし、面倒くさいと思っていました。

そんな自分が変わるきっかけとなったのは2回目の企画会議でした。そのとき私は、勇気を持って「スタンプラリーをする」という自分の考えを発表してみたのですが、大人の人達は私の提案にしっかり耳を傾けてくれて、しかも、私の考えは企画に反映されることになりました。「三寺まいり」の本番でも喜ばれ、とても嬉しかったです。

この体験を通して、私は、「大人も同じ世界の人」という感覚を持つようになり、実際、普通に話せるようになりました。また、「自分は地域を変えられる」という気持ちをもつことができ、以後、地域をよくするためのアイデアを考えるのが楽しくなりました。

・・「ポートフォリオ」「キャリアパスポート」「入試」と有機化

27

『化学基礎』における「ふりかえり」（例）

学習後

「結合の種類」に注目すれば「沸点・融点の高低」「常温での状態」「硬軟」を覚えなくても、だいたい推測がつく。

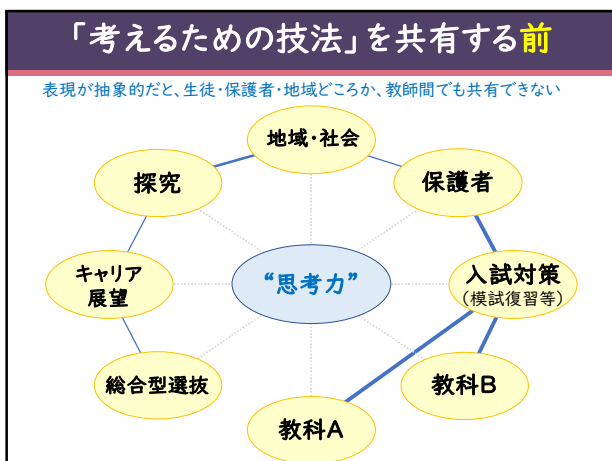
粒子を結合する力の強弱は **関連付ける力、見通す力がついた**

① 沸点・融点の高低 ② 三態 ③ 硬軟の差として現れることが分かった。

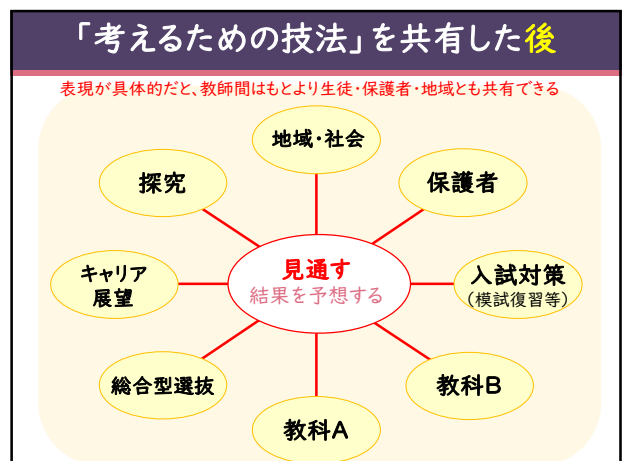
学習前

物質の「沸点・融点」「常温での状態」「硬軟」の三者には互いに関係などなく、各物質の特徴は暗記するしかない。

28



29



30